NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞エコバッグ製作を中心とした学年連携の学習活動

2．学校名

北海道洞爺高等学校

3．実践者名（代表者名）

狩野千賀子

4．学年

第1、2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

被服製作(1年)　22人、消費生活(2年)　9人

6．単元（本時の学習課題）名

洞爺湖町に関わる新聞記事を表面にした新聞エコバッグの製作

7．目標（狙い）

洞爺湖町以外の出身者が多数を占める本校生徒が新聞記事を通して地域のことを知るとともに、その新聞を使用した「新聞エコバッグ」を観光客や地元の方々へ利用を勧めることで環境教育へとつなげる。

8．評価の視点

洞爺湖町のPRとなる新聞記事を探すことができたか。利用したいと思わせる新聞エコバッグを作ることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「平面を立体化する」被服製作(1年)　4時間
「ECOプロジェクト～身近なものを材料とした環境保全活動」消費生活(2年)　9時間　　合計13時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

被服製作(1年)
(1)洞爺湖町のPRとなる新聞記事を選択する。(1時間)
(2)新聞エコバッグを製作する。バッグの深さやマチの大きさ、取っての長さなどを検討し、より使いやすく簡単に作る工夫をする。(2時間)
(3)出来上がった新聞エコバッグを「とうや水の駅」へ持参し、利用してもらう。利用者からの声をもとに反省する。(1時間)
消費生活(2年)
(1)1学年が検討した新聞エコバッグを引き継ぎ、製作方法を再検討する。(4時間)
(2)地元スーパーにおいて実施する「ECOプロジェクト(環境保全活動を呼びかける販売実習)」において、「新聞エコバッグ製作講習会」を実施。(5時間)
(留意点)
学年間の連携をとることにより、活動の幅を広げ、生徒の達成感を高める。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞記事を探すとき紙面全体に目を通すため、気になる記事を見つけると(目的外の内容のものであっても)それを読む姿が見られた。また、新聞エコバッグ講習会では教えることに集中してしまい、古紙再利用というECOプロジェクトの意味をお客様に伝えることができなかったという反省が出された。

12．成果と課題

学年間で連携を図ることにより、学校全体の活動として生徒一人ひとりが意識することができた。また、新聞やテレビ、ラジオでこの活動が取り上げられたことにより、生徒たちは自分たちの活動に自信を持つことができた。

一方、洞爺湖町のPRになる記事がなかなか見つからないという苦労もあった。今後はさらに他教科と連携し、多方面から社会へ発信したい新聞記事の選択をさせることも試みさせたい。